



- ・青葉山の景観を守り、中層程度の自然に溶け込む施設規模とする。
- ・震災を踏まえ、新築・改築の際、昔の沢筋等を埋めたと考えられる土地では、地盤状況等に細心の注意を払い、慎重な計画を行う。また、建替も含め新たに施設を建設する際には、青葉山の地盤特性及び景観を考慮し、原則6階建以下の施設とし、用途に応じて免震や制震構造とする。
- ・旧耐震制度以前に建設された6階建以上の施設については基本的に上階の解体等を行い、振動周期および荷重の両面から安全性を確保する。
- ・新規施設や1～2階建ての低層・老朽化施設は、出来るだけ集約化し敷地を有効活用する。
- ・新規施設については、出来るだけ青葉山駅からのアクセスが容易な敷地への建設を優先することが望ましい。
- ・馬場については将来的に移設を検討し、地下鉄東西線青葉山駅からほど近く、宮城教育大学に隣接する将来拡張用地として、活用の方策を検討する。

5 青葉山新キャンパスへの課外活動施設整備

3 附属巨大分子解析研究センター改修

4 惑星プラズマ大気研究センター改修

1 北青葉山厚生会館改修

2 理学部管理棟改修増築

■新規整備施設

	整備施設	規模	階数
1	北青葉山厚生会館 改修増築	1,531㎡	2階
2	理学部管理棟 改修増築	2,103㎡	3階
3	附属巨大分子解析 研究センター 改修	1,050㎡	4階
4	惑星プラズマ大気 研究センター 改修	1,473㎡	3階

	新築建物		計画建物
	改修建物		改修計画建物
	取り壊し建物		教育研究基盤支援棟
	駐車場 (Phase2-A)		建設可能用地
	保存樹林		オープンスペース
	敷地境界		